

猿投村史

凡例

- 一、本書ハ猿投村ニ關スル過去ノ歴史及現在ノ活動ヲ知り猿投村ノ概念ヲ構成シテ學校教育施設經營ノ參考ニ供シ併テ教授上教材ヲ郷土化マシムルノ資料タラシムルノ目的ヲ以テ調査シタルモノナリ
- 一、本書ヲ郷土資料第一編ト稱スル所以ノモノハ他日準郷土ニ關スル調査ヲメシムラ第ニ編トナシ以テ郷土資料ヲ完成セシメント欲セシガ故ナリ
- 一、本書編纂ノ体裁ハ全ク愛知縣史ニ倣ヒタルモノ
- 一、本書編纂ニ關シ參考シタル書籍少カラザルモ

就中愛知縣史西加茂郡誌

(田中正幅著)

ノ兩書ニ

取ル所最モ多シ

一、本書ハ忽卒ノ際ニ清書シ校正未ダ完カラザ

レバ魯魚馬馬ノ誤リナキヲ保シ難シ是レ等

他日調査シテ訂正スル所アルベシ諸君ノ寛容ヲ

請フ

猿投第三尋常高等小學校内

大正四年十月十七日

村史編纂者識

三宅道滿墓

猿投村大字四郷字下古屋

三河三葉松譽母伊保ノ境ニ在出非ナリ

田ノ間、小丘アリ樹木叢生ス

近年伐採シテ石祠ヲ存ス坪數凡ソ六坪道滿其ノ名ヲ詳ニセズ三

宅右衛門大夫高信

廣瀨城主

ノ庶族ニシテ稻葉ノ壘今石野ニ據テ

叛ク鈴木重政其弟重氏ニ宅某等夜襲テ之ヲ殺ス道滿一ニ

滿作天神ト稱シ賔客アリ酒燈ヲ獻ジ病ヲ祈レハ愈ト云

按ズルニ諸説紛々孰カ其正シキヲ知ル能ハザレドモ其ノ説ノ

近キモノヲ採リ其ノ他ノ説ヲ併記シ以テ參考ニ供ス

設樂郡田内ノ城主菅沼道滿田内六所大明神ノ神祠ヲ燒ク

諸人ノ之ヲ患ムニ宅六郎兵衛鈴木某菅沼某同心シテ長

篠ノ瓜畑ニ於テ之ヲ殺ス埋テ道滿塚ト云道滿ハ廣瀨城

主三宅大夫正光ノ家士ナリ三河名所圖會

譽母町山田治右衛門女ニ廣瀨城主三宅氏ニキセラレ姪ムア

リテ梅坪村ニ歸リ遂ニ男ヲ生ム之ヲ三宅大學子ト稱ス山伏ト

爲テ花本村ニ住ム患慮ニシテ人ヲ殺ス衆之ヲ憎ミ三宅道

滿ト號ス三宅氏其支族ナルヲ以テ之ヲ誅ス道滿石ノ路ニテ

自殺ス此石四郷村ニアリ人呼ビテ道滿石トイフ大學其ノ裔氏

ヲ高橋ト改ム

武田勝頼臣眞田時隆此地ニ住ス晴信自書ノ額ト釵トヲ

埋ム其額ニアリ一ハ欲戰者死ス一ハ清和トアリテ釵長ニテ

堂ニ滿ツ故ニ堂滿ト云四郷村舊記

菅沼道滿長篠菅沼一族元龜二年癸二月戰死田内城ニ

居ル長篠軍記三宅鈴木菅沼等共ニ謀ツテ之ヲ殺スト云何ノ

據アルヲ知ラス菅沼系圖菅沼大膳道滿入道

三宅惣右衛門康貞墓

猿投村大字四郷字上原ニ在リ畑中ニ丘陵アル凡六坪丘上老
松蟠茂ス里民相傳ヘテ物右衛門松ト呼ブ物右衛門ハ通
康貞梅坪村字上原ハ梅坪村ト相傳續スニ生レ天文十二年癸卯在リ慶長九年庚申武洲
瓶尻ヨリ來テ學母城主トナル高亮元和元年卯十月二十三日東京
ニ卒ス年三十七法號靈岩寺殿源榮洞心大居士ト云遺体ヲ此地ニ
歸葬ス同五年卯起勢洲龜山ニ封テ移シ更ニ改葬ト云一ニ此地ハ
茶毘所ニシテ葬地ニアラズトモ云

平松與左門尉廣忠墓

猿投村大字花本真宗光明寺境内ニ石碑アリ高四尺幅一尺
表面ニ平松與左門尉忠墓ト題ス天明年間ニ廣忠五代ノ孫右
衛門某東京ヨリ來テ之ヲ建ツト云葬地ハ字山神ニ五輪アリ

處ナリ此地今ハ民家ヲ建テ其墟ヲ失フ廣忠織田氏ニ供フ
永祿三年庚申十一月伊保城ヲ成ル同四年酉閏三月梅坪城番ヲ
兼ヌ東照弘治二年丙辰平松與左衛門梅坪城ニ居ル三川堤卒
去年月未詳

按ズルニ花本村字元屋敷ノ低地ニ移ス戸數僅ニ十六戸平松
ノ孫現水宮ヲ避ケ高地ニ移ス同村ハ幡社棟梁ニ奉新造
再興若宮八幡大菩薩御寶殿側ニ天正十二年甲申仲冬
吉日三洲加茂郡高橋之莊花本村住人平松與左衛門廣忠
トアリ寛永十五年卯同社修繕棟梁ニ平松右衛門四郎ト
記ス平松氏世々、此村ノ豪族タリシガ後ニ東京ニ移リ
之ト見ユ今平松ヲ稱スルモノナシ世系考フテ處ナシ

岩松右衛門尉直成墓

岡ニ溝ヲメグラス本郷ノ東ニ本倉ト称スル所アリ今ハ田畑タリ
其地五畝歩程ノ畑地高ク周岡ニ三間程ノ低地アリテ溝ヲメグ
ラセリト思ハル所アリ

乙部古墳 數ヶ所アリ

四郷山武士塚 四郷ハ反田ニアリ永祿三年徳川氏東廣瀬ニ三宅氏
ヲ攻ム城陥ル此時三宅高貞ノ四男ニシテ山伏トナリ居タルモノ四郷ニ
來リテ死ス其墓ナルカトイフ

右ノ外御船原其他ニ古墳墓ノ址ヲ散見スルコト數多シ按ズルニ
上古穗(伊保)許呂母(譽母)等ニ國造君別等ノ居住セシト
イハハ是等ニ關係アル人々ノモノナランカ然レドモ何人ノ墓ナルヲ
知ラズ